

## 病院の身体障がい領域に勤務する新人作業療法士が職業適応に求められること

作業療法士学科夜間部

### 【背景】

山野ら<sup>1)</sup>の研究では、新人理学療法士の66%が自身の技術に不安があると示された。一方、看護師を対象とした滝島ら<sup>2)</sup>の研究では、新人に必要な能力として「基礎学力」「専門知識」「社会人基礎力」があり、特に「社会人基礎力」を重視する傾向が示された。これらから、新人の不安と実際に求められる能力には差異があると考えた。本研究では、新人作業療法士が職業適応に求められる能力を明らかにする。

### 【調査対象、方法および手続き】

対象：病院の身体障がい領域に勤務する臨床経験3年以上の作業療法士(以下 OTR)。操作的定義：新人 OTR とは臨床経験1年未満の OTR、先輩 OTR とは臨床経験3年以上の OTR とする。方法：アンケート調査。経済産業省が推進する社会人基礎力12項目、一般社団法人日本作業療法士協会「作業療法臨床実習の手引き第4版」に準拠する専門知識12項目に対し、入職3ヶ月時点と12ヶ月時点での重要度について6件法で回答を求めた(n=178)。自由記述として、OTRの職場適応に求められることも尋ねた(n=104)。

分析：質問項目は、記述統計と正規性の検定、因子分析は確認的因子分析、自由記述はKJ法を行った。倫理的配慮：大阪医療福祉専門学校研究倫理委員会により承認(大医福 第17-教-18号)を得て実施した。

### 【結果】

正規性の検定では、専門知識に比べ社会人基礎力で重要度の高い6と5が占める割合が多い(図1)。因子負荷量の分析で3ヶ月より12ヶ月で負荷量の向上がみられたものは、社会人基礎力では、発信力(69.7→73.4)、柔軟性(68.0→71.7)であり、専門知識では基礎医学(80.4→86.8)、作業療法(以下 OT)評価学(82.6→87.4)の項目だった。KJ法では、社会人基礎力として、先輩・同僚・他職種・患者との報連相、コミュニケーション能力、思考力、遂行能力、人間性として、向上心、主体性、真摯さ、人に対する敬意、専門知識として、OT評価の流れに基づいたチームリハを行う知識が求められていることがわかった。更に「専門知識も大事だが、社会人基礎力や人間性が大事」という記述が散見された(24/104件)。

### 【考察】

結果より、専門知識に比べ、社会人基礎力に関する能力がより重視されていることがわかった。

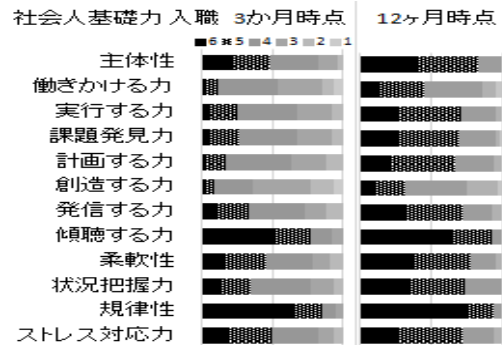
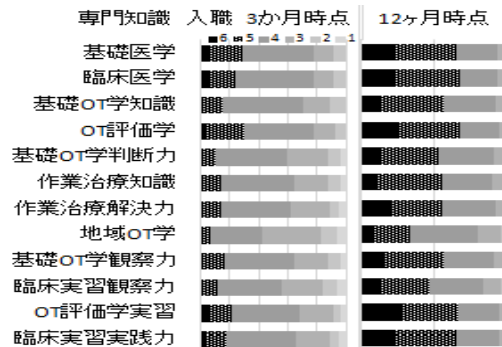


図1 アンケート結果の比率化



先行研究からも、OT実務上必要とされる能力は、コミュニケーションに関する能力や、人間性として道德面の高さが重視されており、今回の結果で得られた新人に求める能力とも合致している。

### 【まとめ】

新人 OTR の職業適応に求められる能力として、専門知識も必要だが社会人基礎力や人間性がより必要であり、専門知識や技術の不足面を補うために、他のセラピストや他部門と積極的なコミュニケーションを図る事が重要と考えられる。

### 【文献】

- 1) 山野薫・小寺正人・他：新人理学療法士におけるリスクマネジメントに関する不安要素. 理学療法科学. 26 (4), 2011, 467-473.
- 2) 滝島紀子：新人看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係. 川崎市立看護短期大学紀要. 20(1), 2015, 33-43.